

ヴェーダ

V E D A

地域の皆さん向けの広報誌

基本理念

わたしたちは地域の中核病院として皆さんの健康を守るために、質の高い医療を提供し共に歩みます。

基本方針

- ・患者さんの人権と権利の尊重
- ・がん医療、救急医療、生活習慣病を中心とした医療の推進
- ・地域の医療機関、保健福祉施設との連携強化
- ・職員の働きやすい職場づくり

「南加賀糖尿病地域連携クリティカルパス」 軌道に乗る

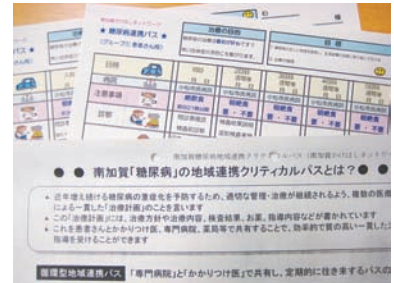
平成21年4月から、南加賀地域における糖尿病の患者さんに、複数の医療機関が継続した治療、療養管理を行うことができる治療計画が運用されています。この治療計画を「南加賀糖尿病地域連携クリティカルパス（以下、糖尿病連携パス）」と言います。糖尿病連携パスによって治療内容、検査結果、お薬などを「かかりつけ医」と「専門病院」が共有することによって、患者さんは質の高い一貫した治療と指導を受けることができます。

糖尿病連携パスの発信病院は、南加賀地域に8施設あります。当院の吉本幸子内科担当部長が事務局代表となり「かかりつけ医」と「専門病院」とのネットワークを結んでいます。

協力頂いている「かかりつけ医」は、内科・外科・整形外科・眼科・産業医を含め68施設、さらに歯科医の先生方にも登録を頂いています。

当院は糖尿病連携パスの発信病院として、専門的な検査や治療、療養指導を行い、状態が安定した患者さんから承諾を頂き、地域の「かかりつけ医」の先生方へご紹介しています。9月初旬現在では、「かかりつけ医」の先生からの紹介患者は28人、当院から「かかりつけ医」への紹介患者は42人と地域の先生方の協力もありネットワークが進んでいます。

当院は今後も、糖尿病連携パスの発信病院として管理栄養士、薬剤師、看護師、理学療法士、検査技師と協働し、糖尿病患者さんの生活をサポートしていきます。



topics トピックス

第3回 市民公開講座の開催

小松市民病院では、10月18日（日）に第3回市民公開講座「明日を生きるがん治療」を小松市民センターで開催します。

当日は、ノンフィクション作家の柳田邦男先生が、「最期まで生きるとは～人生終章と緩和ケア」と題した特別講演を行うほか、当院の職員5人が、がん治療についてわかりやすく講演を行います。

入場無料、申込不要ですので、多くの皆様のご来場をお待ちしています。（時間 13:30～16:00）



柳田 邦男



麻酔科って何？

内科、外科、整形外科などの診察科の中で、今ひとつ何をしているかわからないのが「麻酔科」です。では、麻酔科医はいったいどこにいるのでしょうか？

その答えは……手術室です。

手術を行う際、痛くてはどうしようもありません。麻酔科の仕事は、手術中痛みのない状態を作り、手術が安全に、予定通り行えるようにすることです。

近年、手術時間が極端に長くなり、また、高度の医療機器が使用されるようになりました。これは医学の発展を物語るものではありませんが、麻酔科学の発展なしには考えられず、麻酔科の重要度はどんどん増しているのが現状です。



● 麻酔には大きく分けて全身麻酔と部分麻酔があります ●

無意識
無痛
筋弛緩
有害反射の抑制

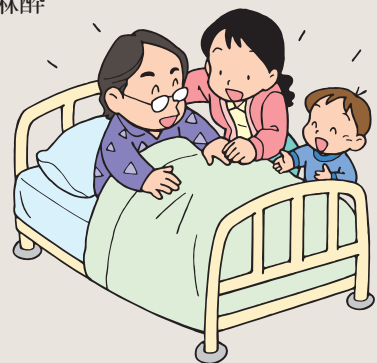
全身麻酔

この4つの要素が全身麻酔です。意識をなくし、痛みを感じなくし、身体を動かないようにし、都合の悪い反射が起きないようにします。この状態を作り出すために、ガス麻酔薬、静脈麻酔薬、筋弛緩薬などを駆使し、安全な状態を必要な時間だけ継続できるようにしています。

意識はあるが、
痛覚の脳への
伝達路がどこかで
遮断された状態

部分麻酔

これが部分麻酔です。痛みの伝わる経路の中で、遮断する場所によって、脊椎麻酔、硬膜外麻酔、伝達麻酔などと呼ばれています。1回の注射で終わる場合と、管を留置することで、何回も必要なだけ薬を使える方法とがあります。



近年の手術麻酔では、全身麻酔と部分麻酔を合わせて行うことでよりよい手術環境を創る方法や、麻酔の切れが非常によい新しい麻酔薬の開発などが話題となっています。

● 当院の現状 ●

現在当院には2名の麻酔専門医がいます。平成20年に手術室で行われた手術の合計は、1734例です。その内、麻酔科が管理した症例は841例でした。ここ数年同じような状況が続いています。以下に平成20年の詳細を示します。

手術部位

手術部位	症例数	手術部位	症例数
開 頭	30	頭頸部・咽頭部	146
開 胸	61	胸壁・腹壁	76
大 血 管	2	脊 椎	20
開胸＋開腹	8	股関節・四肢	189
開腹（上腹部）	160	そ の 他	2
開腹（下腹部）	147		
		合 計	841

年齢構成

年 齢	男性	女性	合計
1歳以下	0	0	0
～5歳	12	13	25
～18歳	42	30	72
～65歳	185	166	351
～85歳	170	184	354
86歳～	10	29	39
合 計	419	422	841

患者さんの権利

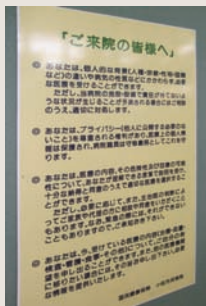
1. 「父権医療」から「患者さんの権利」が守られる医療へ

父権医療とは

- ・医師は、病気のことは専門家である医師に任せて、黙って言われるとおりに
- ・患者さんは、医師にお任せします。

医師の絶対数が少なく医療機関が少なかった時代は、医師のみが専門的な医学知識を有し、医師は患者さんに対して絶対的な立場にあり、患者さんが得られる情報も限られ、医師や治療方法を選択することはできませんでした。

2. 患者さんの権利とは？



患者さんが医療機関において最善の医療を受けるために、患者さんとして尊重される権利です。基本的な権利として、①個人の尊厳 ②平等な医療を受ける ③最善の医療を受けることです。医療における権利は、①自己決定権 ②説明及び報告を受ける権利 ③検証権 セカンドオピニオンを求める権利・医療記録を閲覧し謄写する権利 ④医療機関を選択し、転医する権利 ⑤秘密保持とプライバシーの権利があります。

以上が患者さんとして尊重されるべき権利「患者さんの権利」です。当院では患者さんの権利とお願いを、本館1階総合案内横に掲示しています。

病院探検

輸血療法委員会

輸血療法とは、血液中の赤血球や血小板などの細胞成分や凝固因子の蛋白質成分が少なくなったり働きが悪くなったりした時に、その成分を補う治療です。

この輸血療法には、複数の部署が関与しているため、輸血療法委員会には医師を中心に看護師、薬剤師、事務系職員、検査技師が参加しています。

委員会の業務

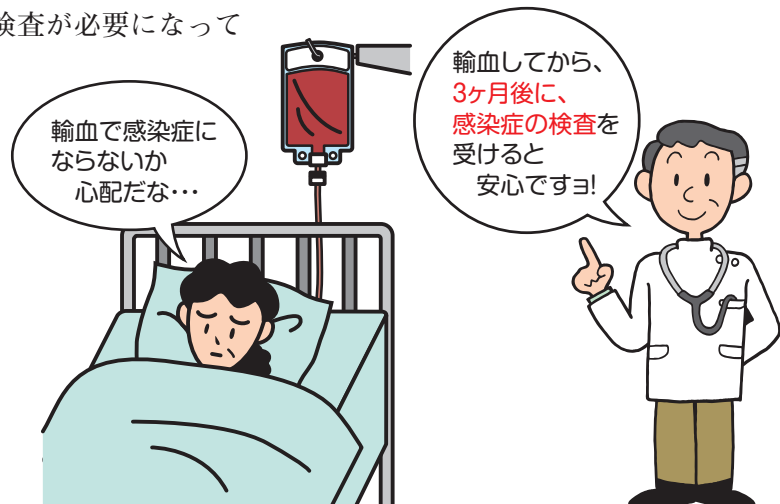
- 輸血療法の適応
- 血液製剤（血漿分画製剤を含む）の選択
- 輸血実施時の手続き
- 血液の使用状況調査
- 適正使用の推進
- 輸血療法に伴う事故、副作用、合併症の把握と対策
- 輸血関連情報の伝達

輸血療法委員会では、委員長を中心にこれらの内容について検討し、安全かつ適正な血液製剤使用の実践が行われるよう努めています

『生物由来製品感染等被害救済制度』をご存知ですか？

生物由来製品（輸血用血液製剤など）を適正に使用したにも関わらず、その製品を介した感染などにより健康被害を受けた方に対して救済給付を行う公的な制度です。感染後の発症を予防するための治療や二次感染者なども救済の対象となります。ただし救済の対象となるためには、輸血前後の感染症検査が必要になってきます。

輸血された方は
感染症の検査を
受けましょう！



—— がん医療の充実に向けて ——

国民健康保険小松市民病院緩和ケア研修会

小松市民病院では、がん診療に携わる全ての医師が、緩和ケアの重要性を認識し知識や技術を習得することを目的として、石川県内のがん診療連携拠点病院及び南加賀医療圏の病院に勤務する医師を対象として「国民健康保険小松市民病院緩和ケア研修会」を開催しました。



オリエンテーション

小松市民病院

村上 眞也 先生



緩和ケア概論

小松市民病院

川浦 幸光 先生



がん性疼痛の治療

金沢大学附属病院麻酔科蘇生科

武川 治水 先生



全人的な緩和ケアの要点

山中温泉医療センター

福田 裕子 先生



がん性疼痛事例検討

金沢大学附属病院麻酔科蘇生科

山田 圭輔 先生



オピオイドを開始するとき

小松市民病院

村上 眞也 先生



呼吸困難

小松市民病院

村上 眞也 先生



消化器症状

石川県済生会金沢病院外科

龍澤 泰彦 先生



コミュニケーションロールプレイ

金沢大学医薬保健研究領域

村上 雅子 先生



がん医療におけるコミュニケーション技術

金城大学医療健康学部

小山 善子 先生



不安、抑うつ、せん妄などに対する緩和ケア

金沢医療センター精神科

小室 龍太郎 先生



在宅における緩和ケア

岡部病院

岡部 洋子 先生



がん患者の療養場所の選択及び地域連携

小松市民病院

村上 眞也 先生

研修会は8月29日、30日の2日間の日程で行いました。院外及び院内の職員24人が研修会に参加して講師10人の講義を熱心に聞いていました。アンケートの結果でも「ロールプレイで患者の視点に立ててよかった」「グループ内で他の医師の話が聞けてよかった」など非常によかったという声が多くありました。

topics
トピックス

若い感性で活きました

7月21日から4日間、小松、小松明峰、小松商業、北陸大谷高校4校による生け花の展示が待合ホール横で行われました。

日頃は池坊全国学校華道会加盟校の華道部員として週1回お稽古をしている高校生です。3年前から患者さん、家族、外来通院されている皆様に楽しんでいただけるようにと、自主的に活動を続けています。

今回も季節感あふれる花々を若い感性で活けてくれました。



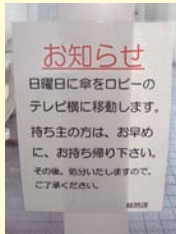
topics
トピックス

患者さんの声に応じて改善しました

● 自転車利用者が快適に駐輪場を使えるように利用方法について注意喚起を促すとともに、使用していないと思われる自転車の撤去を行う準備に取り掛かりました。患者さんが快適に駐輪場を利用できるように取り組んでいます。



● 忘れた傘や壊れた傘でいっぱいになった傘立てを、患者さんが使いやすいように、週1回撤去することにしました。



この取り組みにより利便性や見た目の快適さを向上させました。

● 今までテレホンカードしか使えなかった病棟の公衆電話を、現金も使えるようにしました。



topics
トピックス

さわやかサマーバイオリンコンサート&スマイル委員会コント



音楽や笑いで入院患者のQOLを高めようと、8月12日に「院内コンサート」を開きました。

県ジュニアオーケストラ所属の上野姉妹が、バイオリンにより「ふるさと」や「崖の上のポニョ」など全6曲を演奏し、引き続きスマイル委員会が血圧をテーマにしたコントで患者さんを楽しませました。





topics

トピックス

第3回 緩和医療懇話会

平成21年8月27日(木)7:00からホテルサンルートで、「第3回緩和医療懇話会」を開催しました。当日は、在宅緩和で困難が生じた事例について、医師(往診)、病院薬剤師、訪問看護師、開局薬剤師がそれぞれの立場から講演を行った後にパネルディスカッションを行いました。

当日は120人と非常に多くの方に参加をいただきました。参加者からはたくさんの質問や意見をいただき、その中には継続して懇話会の開催を求める声が多くありました。



topics

トピックス

小松市民病院表彰制度から



職員がともに認めあい、高めあう組織づくりを目指して制定した表彰制度による第1回表彰式を8月5日(水)に行いました。

当日は院長から受賞者の南3病棟の北由希さんと外来の城座圭子さんへ表彰状が渡されました。北さんは精神科救急急性期認定看護師として、城座さんはがん化学療法看護認定看護師として、それぞれ精神科及び外来化学療法室において質の高い看護、安心の医療を提供して患者サービスの向上に寄与するとともに、職員への指導の点からも病院事業に貢献をしています。

topics

トピックス

ふれあい職場体験

医療の現場について幅広く市民に知っていただこうと職場体験を受け入れています。今年は市内の男子中学生3人が来られ、日頃見る機会のない医療現場を実際に体験しました。当日は、医師や看護師からの説明の後、患者さんが見えない範囲で一般病棟、集中治療室、心臓カテーテル検査治療室、手術室を見学していただきました。

チーム医療の中でそれぞれの専門性を活かしながら、患者さんに対して真剣に取り組んでいる姿を見て、仕事への意気込みや最新技術に感動していました。患者さんに寄り添い、思いを引き出しながらのケアを見て、患者さん中心の医療も感じ取っていただけたと思います。今回の体験が将来の夢となり、膨らんでいけば嬉しく思います。

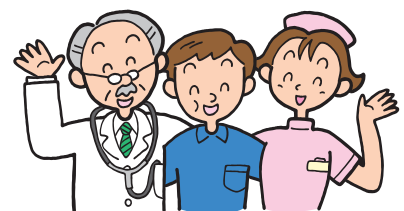


より充実の看護を目指して

当院では、より手厚い看護を行い、患者さんが充実した入院生活を送れるよう取り組んでいます。

患者さんの視点に立った看護には看護師の増員が必要です。現在当院では **看護師を募集** しています。詳しくはホームページまで

<http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/>





小児科Q&A、ときどきA&Q

(けいれん・意識障害編) その2

小児科部長
上野 良樹

Q てんかんと言われたのですが
一生お薬を飲まないといけないのですか？

A そんなことはありません。てんかんと言うと突然口から泡をふいて倒れるという印象が強いのですが実際はとても多くの症状があります。頭痛や嘔吐などの身体症状から数秒くらいの意識消失、顔面や手足だけの痙攣などさまざまです。年齢も新生児から思春期までみられますが年齢によって特徴があります。乳児期に発症する点頭てんかんなどは早期に治療しないと重大な後遺症を残しますが、多くのものは良形で治療を必要としないこともあります。意識消失をとまなう場合は転倒や溺れたりする危険がありますのでお薬を飲みますが症状がなくなれば2~3年で中止してみるのが普通です。

Q もうすぐ1才の翔ちゃんが顔色が真っ青で全身がブルブル震えて
声をかけても返事もなくて痙攣でしょうか？

A 翔ちゃんはもう震えていませんが手足は冷たく顔色は真っ青です。でも翔ちゃんは痙攣ではなく悪寒のようです。悪寒は眼球の偏位や顔面の変化はなく、手足を均等にブルブル震わせます。痙攣の場合は顔面を巻き込んでピクピクッと四肢の屈曲が強くなります。

悪寒は熱が上がりきるまで少し暖かくして様子をみれば問題ありません。このように痙攣とまぎらわしいものをけいれん類似疾患といいます。他には夜驚症、失神、過呼吸症候群、入眠期ミオクローヌス（よく寝入りばなに足がピクツとなるものですが、子どもの場合全身になることもあります。）などがあります。それ以外でも、意識がはっきりしないなど気になる時はいつでも相談においでください。もしビデオが撮れていれば申し分ありません。

topics

トピックス

小松市民病院の新しい基本理念、基本方針を定めました

以前の基本理念、基本方針を策定してから長い時間が経過し、その間に医療を取り巻く環境も大きく変化しています。小松市民病院では、より時代に合った基本理念及び基本方針を策定し、その目標に沿って今まで以上に皆さんの健康を守っていきます。

■小松市民病院基本理念

わたしたちは地域の中核病院として皆さんの健康を守るために、質の高い医療を提供し共に歩みます。



■小松市民病院基本方針

- 一、患者さんの人権と権利の尊重
患者さんの人権と権利を守り、患者さんにとって安心と信頼の医療を提供します。
- 一、がん医療、救急医療、生活習慣病を中心とした医療の推進
がん医療、救急医療、生活習慣病に重点をおき、医療の恒常的な進歩に貢献します。
- 一、地域の医療機関、保健福祉施設との連携強化
地域医療の充実のために、地域の病院、診療所、保健福祉施設との連携を強化します。
- 一、職員の働きやすい職場づくり
職員の研修、研究、教育を通し人材の育成に努め、各人が思いやりを持った暖かい職場を目指します。

編・集・後・記

当院では、職員の働きやすい職場づくりは重要であると考えています。がんばる職員が笑顔で働ける職場づくりや前向きに学べる環境づくりは、職員のやる気向上、人材の育成につながり、その結果、患者さんへの医療サービス向上に反映されると考えています。



国民健康保険 小松市民病院

〒923-8560 石川県小松市向本折町ホ60
TEL(0761)22-7111(代) FAX(0761)21-7155
URL <http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/>
E-mail cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp